

水道広域化の形態(パターン)と期待される効果と課題(「水道広域化検討の手引き」P20 を加筆)

		事業統合	経営一体化	管理一体化	施設共同化
<p>水道広域化のパターン (広域化への移行イメージ) 凡例</p>		<p>● 複数の水道事業等による事業統合(水平統合) ● 水道用水供給事業と水道事業の統合(垂直統合)</p>	<p>● 同一の経営主体が複数の水道事業等を経営</p>	<p>● 中核事業による管理の一体化 ● 管理組織(一部事務組合又は民間法人)への業務の共同委託 ● 水道用水供給事業による受水団体の管理の一体化</p>	<p>● 共用施設の保有 ● 緊急時連絡管 ● 災害時等の応援協定</p>
期待される効果		施設整備、管理体制、事業の効率的運営、サービスなど広範囲にわたり技術基盤や経営基盤が強化に関して効果が期待できる。	経営主体が一つになることで、施設整備水準の平準化や管理体制の強化、サービス面での利便性の拡大などの効果が期待できる。	管理やサービス面で一体化する業務内容に応じて管理体制の強化、サービス面などの各種効果が期待できる。	共同で保有する施設に関して、施設整備水準の向上、また緊急時対応等の面で効果が期待できる
技術基盤に関する効果	水需給	水需給の不均衡解消 ○	—	—	—
		複数水源による供給安定性の向上 ○	—	—	—
	施設	施設整備水準の平準化 ○	○	—	○※3
		施設の統廃合・効率的更新 ○	—	—	○※3
	管理	人材確保・技術力の確保 ○	○	○	○※2
管理体制の強化 ○		○	○	○※2	
緊急時	緊急時体制の強化 ○	○	○	○※2	
	水源の多元化によるバックアップ体制強化 ○	○	—	—	
経営基盤に関する効果	財源	更新財源の確保 —	—	—	—
	事業計画	柔軟な事業計画 ○	○※1	—	—
	運営	効率的運営 ○	○※1	○※2	○※3
	サービス	料金格差の是正 ○	○	—	—
		情報提供、利用利便性拡大 ○	○	○	○※2
		支払窓口の利便性拡大 ○	○	○	—
未給水地域解消 ○		○	—	—	
既往事例		垂直統合では多くの事例あり水平統合は水源問題への対応と市町村合併によるものが大半である。	事例は非常に少ない。	一部事務組合によるものは多数事例あり。	多数事例あり。
想定される課題	(アンケート結果)	料金の格差 ●	—	—	—
		財政状況の格差 ●	●	●	●
		施設水準の格差 ●	●	●	●
		維持管理水準の格差 ●	●	●	●
		職員の処遇 ●	●	●	●
		水道利用者・議会の理解 ●	●	●※4	—
考察		水平統合の推進には国や都道府県の指導および支援(法制度改正等含む)が不可欠。	最終的な事業統合への経過プロセスと位置づけられる。	本格的な広域化(事業統合・経営統合)への経過(準備)プロセスとして位置づけられる。	効果は限定的であり、本格的な広域化(事業統合・経営統合)への経過(準備)プロセスとして位置づけられる。

※1 会計が別なため内容に応じて一部可  
※2 業務内容に応じて一部可

※3 共同施設を保有する場合は一部可  
※4 十分な説明責任を果たすことが必要